

全棟のC値実測は 快適さのお約束

C値は、建物の「気密性能」を表す具体的な物差しです。

建物完成後に実測

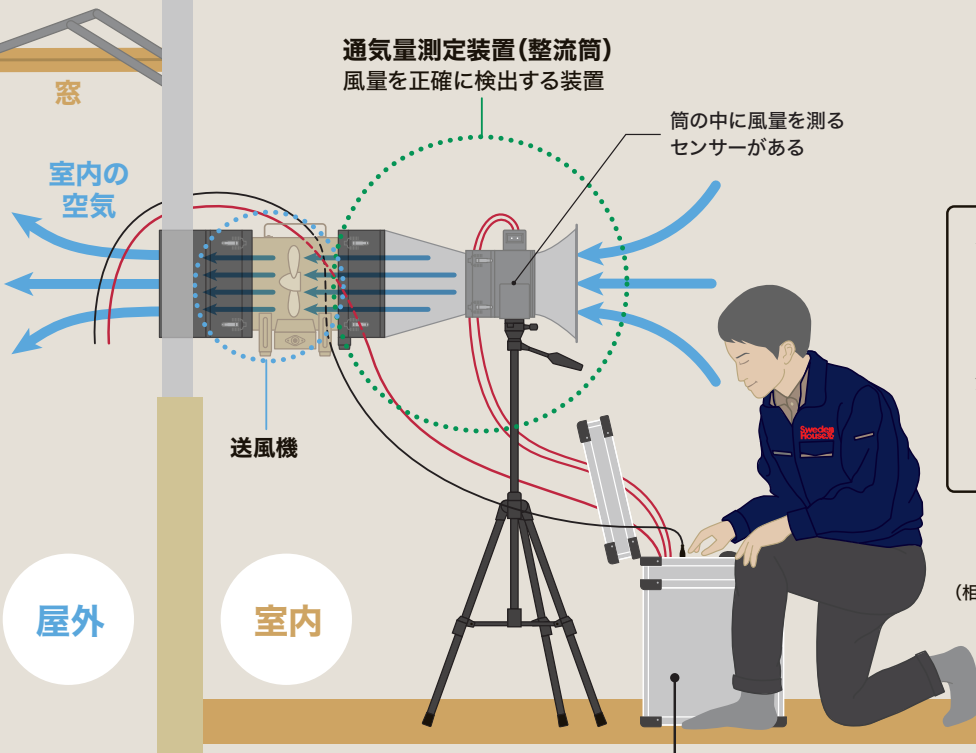
確認するもので、その数値は1軒ごとに異なります。

住まいの快適性能を保つため、スウェーデンハウスは気密性能にこだわり、全棟で「C値実測」をしています。これは、モデルハウスや特別仕様の家だけが高性能ではなく、スウェーデンハウスがお引渡しする家は、その全てが高性能である

標準仕様で

高性能であることこの証明でもあります。これまでの紹介してきた数々の気密施工の積み重ねは、快適な暮らしにつながっているのです。

【C値の測定方法】 気密測定器を用いて、減圧法で測定。



送風機で住宅内の空気を外に出した時の「通風量(=送風機の風量)」と「圧力量」の関係からC値を算出する。

送風機で室内の空気を出していくと…

気密性能が低い(=隙間が大きい)建物の場合、隙間を通して外からどんどん空気が入る

通気量を多くしても圧力差が生じにくい。

気密性能が高い(=隙間が小さい)建物の場合、外から空気が入りにくい

少ない通気量でも圧力差が大きくなる。

スウェーデンハウスはこちら

$$C \text{ 値} = \frac{\text{総相当隙間面積 (cm)} \times \text{気密測定器で測定、計算した数値}}{\text{延床面積 (m}^2\text{)}} \text{ (相当隙間面積)}$$

C値が小さいほど、住宅の隙間が小さく、気密性能が高いことを表す。

圧力差測定装置/外気・室内温度測定装置

「全棟高性能

保証表示システム」

住まいの快適性能と省エネ性能を両立させるためには、高いレベルでの気密・断熱・計画換気が大切です。これをバランス良く働かせ、相乗効果を発揮させるためのポイントが気密性能になります。気密性能をしっかりと確保しなければ、隙間から自由に空気が入りしてしまい、断熱性能を高めても、その効果を発揮することはできません。同様に気密性能が低いと、計画的な空気のコントロールが適わず、換気効率にも大きく影響します。こうなると、結露やカビの問題など、健康はもちろん家自体の寿命にもかかわります。

スウェーデンハウスは日本の住宅メーカーに先駆けて、1999年にスタート。1棟1棟、Q値(断熱性能)を計算、C値(気密性能)を実測してきました。2013年からは、改正省エネルギー法の施行に先立ち、新たにU値(断熱性能)も加えて、性能を表示しています。断熱性能や計画換気の効果を正しく活かすために不可欠の気密性能。C値を実測してお引渡ししているのは、その大切さをご理解いただきたい想いと、私たちがご提供する施工品質に対する自信でもあるのです。